

内 職

水戸市を中心とした各種事業所

のうちで、内職を提供している事業所は約 100カ所ある。それらの事業所で発注している内職は、和裁類が最も多く、次いで紙製品、編物、洋裁の順となっており、外にミシン縫製修理、造花類製造、印刷製本、玩具類製造などがある。内職をやっている者は約 1,500人で、女子がその9割近くを占めている。

内職製品の大部分は国内向け、輸出向の生産に当たっている事業所は、わずかに8%ばかりで、その主な製品は手袋、フックドラック、写真機付属品、造花等である。

内職をやる場所の9割以上が自宅で、その材料とか製品の運搬は7割近くが発注業者でやっている。

内職工賃の平均月額額は 2,680円となつているが、日取工賃の最高は結婚衣裳仕立 1,000円で、タイプ 800円、トレス、筆耕545円、ミシン縫製修理 550円 大人セーター類機械編み 456円などが工賃の多い方である。

国民所得

米ドルに換算した世界55カ国 (ソ連と中共の資料はない) の国民所得と、1人当りの国民所得 (1952~1954年平均) が国際連合から発表されている。

これによると、欧州と大洋州の高所得と、アフリカ、アジア、アメリカ (カナダとアメリカを除く) の低所得がはつきりあらわれている。

国民所得からいえば、この表では (以下同じ) 日本は7番目であるが、人口が3番目なので、1人当りの国民所得は36番目となつている。

同じく1957年の国民所得を比較して見ると (この表でも中国、ソ連は除かれている)、日本は国民所得では8番目、1人当り所得では27番目となつている。

所得と物価との関係も考えて見なければなるまいが、日本の1人あたりの所得 249ドルは、アメリカの2,132ドル、カナダ 1,460ドル、スウェーデン1,276ドル、スイス1,244ドル、ニュージーランド1,168ドル、イギリス954ドル、フランス742ドル、西ドイツ

742ドルなどに比べると大分低いようである。

縦

横

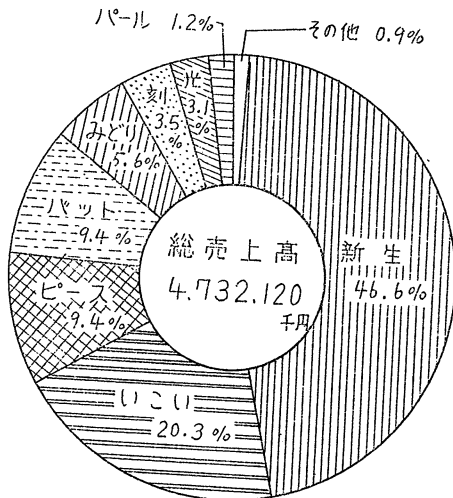
軸

軸

本県では何が売れるか

昭和33年度の本県のたばこの銘柄別販売数量実績を千分構成比で見ると、前年度より「ピース」が5、「いこい」19、「みどり」34とそれぞれ上昇し、「光」「パール」が9、「新生」が34と減少している。新生族のし好が「ピース」「いこい」「みどり」に移行しつつあるのがわかる。

しかしながら、「新生」は依然として本県での売上の王座を占め、その全売上における千分構成比は50.2である。下表は、販売金額による銘柄別構成比を示す。(資料 日本専売公社水戸地方局「事業統計」より)



ちよつと古い統計で恐縮だが、昭和33年10月1日現在の全国の郡市区町村数は下記のとおりとなつている。

郡	509	区	84
支 庁	14	町	1,902
郡に相当する島	5	村	1,231
市	530	市町村計	3,663

但し1.東京都の区の存する区域を1市として計算してある。

2.表中「郡に相当する島」とは、大島、三宅島、八丈島 (東京都)、隠岐島 (島根県) 対馬島 (長崎県) の5島をいう。

ここで全国の市町村数の変せんを眺めて見よう。

	計	市数	町数	村数
大正9年	12,188	81	1,364	10,743
昭和5年	11,807	107	1,700	10,000
〃 15年	11,132	166	1,758	9,208
〃 25年	10,414	248	1,877	8,289
〃 30年	4,813	491	1,864	2,458

大正9年からみると市は6.5倍、町は1.4倍、村は9分の1になつている。

大正9年の茨城県の市数は1、町数は46、村数は334であるから、現在と比較すると、市は16倍、町は0.9倍、村は9分の1となつている。

これで見ると町数というのはあまり変りがなく、町数を軸として村と市が大きく 180度の転回をしたといえる。

たばこ

市町村数



## 昭和35年国勢調査とは

## どんな調査か

本年10月に行われる国勢調査は、統計調査では東の正横綱というところである。この横綱、本場所は10年に1度しか相撲をとらないが、とつたととなると長引いて、すつかり片がつくには、数年を要する。

さて、今年10月の本場所で、横綱はどんな相撲をとるかを、計画されている調査事項からさぐつて見よう。

### その1 人口の移動をとらえる

昨年11月の第3次試験調査の調査票には1年前の常驻地という調査欄が設けられており、これは国勢調査では始めてのものである。日本の人口問題の1つに、人口の都市集中という問題があるが、こうした人口の移動に関する統計資料としては、登録人口調査とか食糧配給の転入届の資料があるが、これらの資料からは転入の数只得られるだけで、その年齢別や就業状態などの資料は得られない。人口移動に関するいい資料がないと、将来人口の推計も適確には行なえない。

昭和5、25年の国勢調査では出生地の調査が行われたが、今回は出生地と1年前の常驻地とどちらの調査をするか検討された結果、遠い昔の出生地を調べるよりは、1年前の常驻地を調べて、最近の人口移動の資料を得る方がとりあげられたようである。

### その2 在学や最終学校を調査する

調査欄7に教育という欄がある。在学や最終学校を調査するもので、学校の種類は8つに分けてある。この場合、学校の種類が多様多様なので、学校の種類一覧表という表が出来ており、この表にない種類の学校の在学者または卒業者は、その前に卒業した学校の種類について記入するようなことが考えられている。

昭和25年の調査では、学校の種類ではなく、通算した在学年数が調査された。しかしこの調査では、青年学校

などに10年近い課程があつて、その卒業者が大学卒と同じように表わされるといふ問題があつた。

### その3 日本女性の出産力を見る

調査票9と10の欄は結婚した女子だけが書くことになつてゐる。結婚年数と子供の数を調べるもので、日本人の出産力の資料を得ようというものである。

日本の戦後の産児制限の効果は、日本の人口構造に大きな変化をきたし、これは諸外国にも例のないことで、外国では日本のこの調査に注目しているといわれるものである。

### その4 雇間人口を知るために従業地と通学地をしらべる

調査票18は従業地または通学地を調査する欄となつてゐる。これはどこの市区町村から、どこの市区町村へ通勤者、通学者が何人いるかということを出して、通勤者通学者の実態を知ることと、雇間人口を知ることが目的としてゐる。

### その5 照査表に農家世帯、漁家世帯といった世帯の特性を記す欄がある

調査の際、調査員が作るものに照査表があるが、この表には、従来なかつた普通世帯の特性を記入する欄が設けられている。

世帯を産業別に大別し、調査が終るとすぐ人口数と一緒に種類別の世帯数が算出されるよう計画されている。これは各調査区の地域特性を種類別世帯数で示し、標本調査の設計などに用いることを考えたものらしい。

調査項目および照査表からみた本年度の国勢調査のかわつた点は大体以上のものであるが、この調査の集計上の色々な問題は次回に紹介して見たい。



## ひとやまのみかん

生井一郎

東京にいと、どうも新鮮な野菜が不足がちである。そこでよく果物店で、ただで食後をそそる、あの独特の色つやのみかんを買ってきて食後に食べるよう心がけている。みかんも1個10円程度の上等のを買えばよいのであるが、なるべく経済的ということで、ひとやまいくらというのを買うことが多い。大体同じようなのが並んでいるのであるが、目をちよつと輝やかして？なるべくつぶのそろっているのを選ぶようにしている。

そこでこのそろっているとか、ふぞろいとかいうことは皆様も平常よく使っている言葉であると思う。これを統計では標準偏差が大きいとか、小さいとかいつている。つまりつぶぞろいであるということ、例えば10個のみかんを、その重さをもつて比較してみると、あまり相互に差がないということで、10個のみかんのそれぞれの重さは、この10個のみかんの平均値に近いところにちらばつているということである。したがって標準偏差が小さいといえる。これに対して同じ10個のみかんでも大きいのもあれば、小さいのもあり、きわめてふぞろいなのは標準偏差が大きいということになる。だから学校衛生統計の結果から、例えば、中学3年生の身長を、A、B両校について比較してみる場合にも、平均身長は両校共に152cmであつたとしても、A校がB校より標準偏差が小さいときは、B校よりよい状態にあるといえる。また毎年の調査結果から、標準偏差を算出し、これを時系列(年の順に並べる)にしてみると平均値は年と共に大きくなり、標準偏差は小さくなって行くようであれば、理想的な方向に発達しているということになる。

また、同じ恒星の位置を多数回繰返して観測すると、毎回の観測結果は必ずしも同一でなく、あらゆる注意と補正を行つても、なお常に少しずつ違つた値を示すが普通であるが、これらの観測値を整理して度数分布の形にまとめてみると、常に規則的な対称分布の形を示す。AとBの観測の結果を比較して、同じ観測回数でAの方が標準偏差が小さければ、その平均値はBより信頼性があり、正確であるといえる。

標準偏差の大きな特徴として度数分布が正規分布であれば標準偏差の一定倍数の範囲内に含まれる度数は、全度数に対して一定割合を示す。

範囲	度数の割合
平均値から±標準偏差の1倍	68%
〃	95%
〃	99%

このような性質を利用して、工場等で、製品の検査等の製品管理が行われる。それは過去のデータからあらかじめ管理図に、この±標準偏差の2倍あるいは3倍の線を引いておき、これに毎日検査した結果の不合格品の数量を記入してやれば、もしこの3倍の標準偏差の外に記入されるようなことが続いたならば、このことは100回に1回ぐらいしかないことが続いて起つたのであるから、生産工程に何らかの原因があるのではないかということになり、調べることになる。

ここでちなみに例の家計調査の結果から算出した標準偏差によつて調べてみると、(この分布は非対称分布であるが)次のようになる。

32,060円±17,410円約15,000円~50,000円の範囲内に2,031世帯、全世帯の75%が入り、更に標準偏差の2倍の範囲内には2,462世帯の96%が入つている。

次に標準偏差の計算について簡単な例で考えてみよう。

- (1) 2, 3, 5, 10, の四つの数についてまず算術平均を求める  $(2 + 3 + 5 + 10) \div 4 = 5$
- (2) 四つの数のそれぞれについて平均値からの偏差を計算する  $2 - 5 = -3, 3 - 5 = -2, 5 - 5 = 0, 10 - 5 = 5$
- (3) 偏差を自乗して平均する

$$(-3)^2 + (-2)^2 + (0)^2 + (5)^2 \div 4 = 9.5 \text{ これが分散である}$$

- (4) 分散を平方に開くと標準偏差が得られる

$$\sqrt{9.5} = 3.08 \text{ これを頭に置いて、こんどは総理府統計局が行つている家計調査(標本調査)結果から、平均及び分散の簡易計算を行つてみよう。}$$

算術平均は、平均される変量(ここでは一世帯の収入金額)の項数が少ない場合は、それぞれの世帯の収入金額を合計して、それらの世帯数で割ればよいのであるが項数が多くなると、これを度数分布の形に整理して行うとよい。これをしておけば分散の計算もずっと簡単になる。ところで度数分布表では、変量の値は一定間隔でしか与えられないから、個々の変量の正確な値はわからないが、通常級間の中央値を度数全体の変量値として計算する。これは級内では変量が均等に分布しており、従つて級内の変量の算術平均が中央値に等しくなることを仮定しているわけである。級間隔があまり広くなればこの仮定によつて起る誤差は極めて僅かであり、例の場合個別データから算出したものが、32,217円であり、度

数分布表から計算したものが、32,060円である。

まず記号の約束を次のようにして計算してみよう。

$N$  = 世帯総数  $\sum F$

$F$  = 度数 (世帯数)

$H$  = 級間隔 (5,000円) 途中から 10,000円になっている。

$X$  = 階級の中央値

$A$  = 任意の値 (度数分布表をみて平均値があると思われる階級の中央値を選ぶと計算に手間がかからない, ここでは32,500円とした)

$x = X - A$   $x$  が 3 から 4.5 になつたのは中央値が 47,500円から 55,000円になつたのでその差が 7,500円のため。

として算術平均  $M$  は  $A + mH$ ,  $m = \frac{\sum Fx}{N}$  により得られる。

$$m = \frac{-227}{2,572} = -0.088$$

$$M = 32,500 + (-0.088 \times 5,000) = 32,060$$

分散  $V$  は  $H^2 \left( \frac{\sum Fx^2}{N} - m^2 \right)$  から

$$(5,000)^2 \left\{ \frac{31,167}{2,572} - (-0.088)^2 \right\} = 2.955 \times 10^8$$

(全都市)

勤労者世帯 1 カ月間の収入

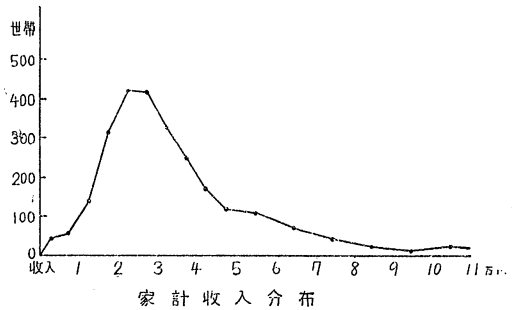
(34年9月)

これから標準偏差は  $\sqrt{V}$  であるから

$$\sqrt{2.955 \times 10^8} = 1.719 \times 10^4 = 17,410 \quad (\text{このとき対数計算を使うとよい}) \text{ が求まる。}$$

$\Sigma$  は総和 (Sum) を示す記号で,  $S$  に相当するギリシヤ文字 (シグマ) であり,  $\bar{X}$  は  $X_1 + X_2 + \dots + X_n$  を意味し, ここでの  $Fx$  は  $F \times x$  を各階級ごとに算出しそれを合計したものである。

なお近藤次郎著, 「統計学のための数学入門」を御覧いただければなお一層くわしく御理解になれると思う。



現金実収入階級 (千円)	世帯数 $F$ (2)	中央値 $X$ (百円) (1)	$X - A$ $x$ (3)	(2) $\times$ (3) $Fx$ (4)	(3) $\times$ (4) $Fx^2$ (5)
5未満	46	25	-6	-276	1,656
5以上~10 //	56	75	-5	-280	1,400
10 // ~ 15 //	143	125	-4	-572	2,288
15 // ~ 20 //	318	175	-3	-954	2,862
20 // ~ 25 //	423	225	-2	-846	1,692
25 // ~ 30 //	419	275	-1	-419	419
30 // ~ 35 //	331	325	0	0	0
35 // ~ 40 //	247	375	1	247	247
40 // ~ 45 //	172	425	2	344	688
45 // ~ 50 //	121	475	3	363	1,089
50 // ~ 60 //	116	550	4.5	521	2,345
60 // ~ 70 //	70	650	6.5	455	2,958
70 // ~ 80 //	48	750	8.5	408	3,468
80 // ~ 90 //	24	850	10.5	252	2,646
90 // ~ 100 //	11	950	12.5	138	1,725
100 //	27	1,050	14.5	392	5,684
合計	2,572	—	—	-227	31,167

# 新市町村の横顔

## 西茨城郡 七会村



阿久津村長

### 1. 概 況

今年1月末の七会村の人口は4,221人(男2,050人,女2,171人)世帯数731で、この数字は県下市町村のうち最少である。それもその筈、この村は昭和28年の町村合併促進法の施行に際し、地理的事情から、県下でただ一つの合併不能村といわれて、一時は笠間市から合併の働きかけもあつたそうだが、結局は取り残され、このように最小の村となつてしまつた。しかし最小と

いつてもそれは人口だけの話で、村の総面積は63.94kmもあり、従つて人口密度は県下で最も低い。

この村は栃木県と境を接しており、標高は200mから450mの間で、上記総面積の82%を山林が占めている。笠間市から役場に向う東野バスに乗つて約1時間、途中山また山の連続で、人家が1軒もない所があつて、成程七会とはいのししの出るところとはもつともだ、と思つたものである。

このような、いわゆる地理的事情にあるので、この村への交通は大変不便である。それは村に道路らしいものがあまりないことにもよるだろう。笠間から本村までは9km位しかないのに、バスで1時間もかかり、それでもこの道は新しく出来た、鶏足山観光道路だとのことだつた。

村の交通網としては、東野バスが、笠間、塩子、(本村の大字)間4往復、塩子、石塚間4往復、塩子、茂木間3往復走つている。だがこれ位の便では行きはよいよい帰りはこわいになりかねない。

七会村という村名は、明治22年の市町村制施行にあつて、当時の徳蔵村、小勝村、塩子村、下赤沢村、上赤沢村、真端村、大網村の7カ村が合併して出来た所から来ており、旧村は現在大字となつている。

### 2. 産 業

村民の産業別構成を見ると、8割強が農業に従事して

いる。田も畑も、総面積の各々4%しかなく、塩子部落あたりで1戸あたりの耕地面積は、田畑合せて50アールと少ない村だが、村の性格は矢張純農村ということになる。主要農産物は米、麦、たばこで、特産物としては、2、3年前からしいたけの栽培を開始し現在約200戸が栽培に従事し、出荷組合も出来て、年間20tが主として宇都宮方面に出荷されている。ぶどう、桃の果樹栽培もこのところ盛んになつて来たが、昔盛んだつたこんにやくは土地が合わないといつて、今では殆んど作る者がいない。土地が狭いので酪農には力を入れている。集乳場は4カ所設置され、将来の夢としては酪農製品の工場建設まで発展したいそうだ。林業について……この村の特色はやはり林業にあるだろう。村内に国有林が24ヘクタール以上あるので、年間を通じて山仕事があり、山の賃金がいので、畑仕事に人手不足だといふ。又民公有林も34ヘクタール以上あり、林産物の生産は、用材38百万円、薪材10万把3百万円、木炭5万俵と非常に多い。この2月行われた農林業センサスを契機として、林業政策も1歩前進を見せるだろうから、植林や樹種改良や部分林設定など今後にあつて仕事は多い。

この村には大正5年に開かれたという高取鉱山があり重石、タングステン、銅を採掘している。又舗装道路の下敷きとして碎石を採る日本碎石KK塩子事業所があり、33年の鉱産品は重石25百万円、マンガン8百万円、銅120万円、碎石15百万円をあげている。

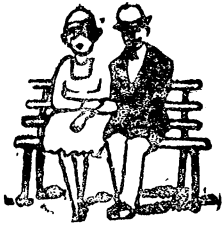
### 3. 教育文化

昭和35年度村長の抱負として、青年研修所の建設と老朽化した中学校の建設がある。本村からの高校進学は卒業者の3割位で、水戸、笠間、茂木へ通つている。最後に例のいのししの話だが、最近では数が減つたとの事で、それでも年間30頭位獲るそうだが、ここではもう珍しくないで、他村のように大騒ぎはないといふ。ここに10年から入り込んでいるある県南の業者は、まだ1度も肉を御馳走になつたことがないといつて笑つていた。

規模は小さくても、この村にはある種の純朴さが残されており、それが今後の村造りに大きな原動力となるだろうことは疑いないと思ふ。

昭和34年度一般会計歳入歳出予算 単位 円

歳入	村税	地方交付税	公営企業及 び財産収入	使用料及び 手数料	国庫 支出金	県支出金	寄付金	繰越金	雑収入	合計					
入	6,037,300	5,735,040	295,000	120,300	417,140	524,630	177,000	1,443,050	105,200	14,854,660					
歳出	議会費	役場費	消防費	土木費	教育費	社会及び 労働施設費	保健 衛生費	産業 経済費	財産 費	統計 調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
出	494,600	4,472,180	1,077,480	872,150	3,057,012	164,060	337,050	2,012,454	757,000	92,560	316,300	1,000	1,398,980	104,531	14,854,660



(隨筆)

疲

れ

休

め

小野瀬二郎

——ちよこつとTさんがやつてきて、私に何か書いてくれという。もともと私の手はペンを執るようには出来ていない。しかし頼まれれば越後からも米搗きという言葉もあるように、時としては不得手中の不得手をも省みず引き受けないわけにはいかない。といつてもこれといった持合せもなかつたが、ただ感じたままのことを書き散らすことにした——。

日本女性の姿態は、静中の動を捕えると一番美しく、これに反して西洋人は動中の動の中にその美を見ることができのではないかと私は考えている。なるほどだから日本女性の姿態を定める時には、膝を折つた姿勢、跪いた姿態などが美しいが、西洋人の場合は立って動いている姿態が実に美しい。

これはつまり日本人の生活様式から考えることができる。日本家屋内の「坐る生活」では、膝を屈伸する機会が非常に多い。そのために日本人の膝の関節は特に発達しているものと思われるが、西洋人にはそれがなくて関節の発達に乏しく、ただ脚が長く伸びてしまつたのであろうと思われる。また日本人の足首は膝を折つて坐るときに伸びるので、自然に発達したのかも知れない。だから日本婦人の大腿部の線などは、西洋人に見られない美しさを持つている。生活様式の相違からくるこの種の一例では、日本の食事の摂り方では箸を巧に使うが、この箸を使うことによつて指の運動がよくでき、どんな細かい仕事でも器用にできるような発達をしている。西洋の女性の姿態と日本の女性とは、このようにして自ら美の観点が異なるのであるから、もつと日本女性は自らの黒い髪、黒い瞳に自信を持つべきだと思つづく思う次第である。いくら真似をしてみても、黒い瞳は蒼い瞳にならないではないか。

「あの数寄屋橋あたりから銀座にかけて歩いている女性を見ると、どうも国籍不明の女としかうけとれない。しかもあの爪を染めているのを見ると、余りよい感じは持てない。化粧にしても、西洋ではその金髪が先天的に縮れているのを優美とし、それに合せた化粧をする。日本の婦人のように髪の色や肌の色などの違う顔に、直輸入的な化粧法を取入れることは至極不調和に見える。日本ではやはり日本女性らしい化粧法をもつと研究しなければ嘘だとしみじみ感じた」だが一方、こうした好みの男性も決して少くあるまい。またその影響も多いものと

も考えられる。もともと日本人は新しいことをもつて美の要素と心得ているらしい。なんにつけ新鮮ということはよいが、新しいということは、ただ西洋の真似を無反省にやつたというだけのことで、ここには何等の意義が見出されない。私は、真の新しさは古いものから引出した新鮮さをいうものと考えている。

明治初年に断髪令が出、明治5年に新服制が制定されて、男子は洋服を着用するようになったことは、だれでも知っているのである。そして、洋服の人が新しいという観念を植へつけた。同時に昔からある紋服を古いかの感じをいだし、どんどんかなぐり捨てていつたことも。それは明治維新という一大転換期が原因していることはいうに及ばないが、この間、もし純日本風の服装が案出されていたら、現在にどう影響したであろう。その頃は唐制模倣の服装が主であつたが、またそうでない時代もあつた。

紋服の初まりは室町時代のことであつたが、この紋服の紋のごときは非常に独創的であり、家系を重んずる日本人にはびつたりしたのかも知れない。ところがこの礼服がフロックコートに変つてしまつた。西洋の礼服は法律で定められたものであるが、その西洋の礼服がそのまま日本に取り入れられて礼服となつた。これは果して日本人に最適の服装であつたろうか。これらを通じて調和、不調和の流れを経ているうちに国民服の出現となつたが、結果的には余計な服を一つ作つたに過ぎなかつた。

最近日本女性の洋服が身につけてきたともいわれるがこれは大きな間違いではないか。元來日本の女性は脚が短い。しかし西洋人に比べて脚が短いということはちつとも恥じるに当らない。否、これが人体の本当の形なのである。これを決定する根本は、人間というものがかいかに出来たかという、人間創造の自然の理性に遡らなければならない。この理性に照し合せてみると、日本人の体、つまり日本人女性の体こそ、実に理想的な均整のとれた体といわなければならないのである。

日本人の体は、背丈の高さを十で割つてみると、その十等分した寸法が身体各部の標準寸法になつていて、手の長さ、足の長さ、その他身体各部の長さはその標準寸法の倍数によつて解決される。十という数程自然の理性に叶つた数はないので、この数で割り切れる日本人の身体が、いかに自然の理性に叶つているかが分るであろう。これに比すると、西洋人は足が必要以上に長くなつているので、この理性には当てはまらない。これが日本人の体の優れている第一の証拠であると私は信じている。

(県経済統計係長)